

三重県図書館協会報 2019年3月27日発行

協会だより No.70

目次

利用者と作り上げる図書館	1
トピックス～図書館をめぐる話題から～	2
平成30年度図書館活性化推進事業のご報告 ..	4
研修会のご報告	6
新館案内	8
ブックエンド	8

編集・発行 三重県図書館協会＝津市一身田上津部田 1234 三重県立図書館内 電話：(059)233-1181

利用者と作り上げる図書館

木曾岬町立図書館

吉武 奈穂子

木曾岬町立図書館は、町内初の図書館として平成30年1月7日にオープンしました。開館後1年を迎えたばかりの、県内では新しい図書館です。また、蔵書は前身の北部公民館図書室から移管したものを合わせ約23700冊（平成31年1月末現在）、蔵書収容能力30000冊と小規模な図書館ですが、利用目的は本の貸し借りに留まらず、乳幼児からシニア世代の生涯学習の場、町民の憩いや集いの場として、多種多様に機能する地域密着型の図書館です。小規模図書館として利用者に寄り添い、出来ることは何かを常に考え、利用者一人一人との関わりを大切にしています。

館内には、「郷土文化交流スペース」を設け、月ごとに町民の文化講座・サークル活動等の作品展示や、保育園・幼稚園・小学校・中学校の取り組みの展示、各種ワークショップを行うなど、町民の文化活動を支える場として活用しており、図書館からも関連図書を展示しています。

当館は、スタッフと一緒に図書館を盛り上げる「図書館サポーター」を募集しています。館内を生け花で彩るお花サポーターや、子どもたちに読み聞かせを行う読み聞かせサポーター、日々の書架整理や蔵書点検で活躍する整理サポーターなど、それぞれが得意なことや興味がある分野で活躍していただいています。サポーターは現在11名です。昨年度は手芸サポーターの方に、木曾岬町のキャラクターのトマッピーを縫い付けた座布団や大型絵本の貸出バッグを制作していただきました。様々なサポーターの協力のおかげで、図書館スタッフだけではできないことや、より地域に密着したサービスを提供することが出来ています。

スタッフの人数が少ない中で、当館がこだわって力を入れていることは、月ごとにテーマを決めて本を紹介する「メインコーナー」や書架につける「コメントカード」です。1冊でも多くの本を手にとってもらえるように、本と出会うきっかけにな

ればと思い、1枚1枚、作成していきます。コメントカードがきっかけで「今月のテーマは何?」「この本面白かったよ」など、利用者さんとの会話のキャッチボールが生まれることも多く、スタッフのやる気にもつながっています。今後も多くの方のアイデアや技術、そして真心に支えられながら、町民のみならず一緒に、地域に愛され必要とされる図書館づくりを目指していきます。



メインコーナー



トマッピーの座布団

トピックス

図書館をめぐる話題から

「真冬の詩の朗読会」について

明和町立図書館 西村篤史

平成24年の春、Yさん（男性）と本館で出会いました。Yさんは詩を書く人でした。二度、三度と会う中で、「詩の朗読会いいですね。」と話したことがあったのですが、それきりになっっていました。それが1年ほどたつて「やりましょうか」となりました。

もうお一人Iさん（女性）をお誘いして、企画を考えました。自分の書いた詩を読む。お気に入りの詩を読む。朗読を聴くだけの参加もOK。それぞれ詩への想いを語り合う。テーブルの上に花。竹の都の図書館ということで、竹の花筒。途中でコーヒータイム。Yさん、Iさんは進行役兼務。期日は1月。それで「真冬の詩の朗読会」としました。「朗読会に意味があるのかないかは考えな

い。今日一日の中で2時間いい時間を過ごせたということ」。



コーヒータイムの様子

平成25年1月26日第1回開催。参加者12人。最初の詩は伊藤比呂美さんの「雪」。

本年2月2日で第7回となりました。参加者26人。これまで朗読された詩は、83人の詩、112編。島崎藤村「初恋」、竹内浩三「ほくもい

くさに征くのだけれど」、まどみちお「カニ」、金子みすゞ「月のひかり」、ヘッセ「きりの中」、草野信子「自転車」と思い思いです。一編の詩には詩を書いた人の魂がこもっていますが、朗読する人にとつてその詩は自分とどこかで重なっているようです。

スタッフは、コーヒータイムの準備など、縁の下にいますが、朗読を聴かせてもらう私は上席にいて、「いい時間」を過ごさせてもらっています。



朗読会の様子

「ボランティア活動報告 展示会」について

熊野市立図書館 大石陽子

熊野市立図書館では、平成28年から日頃の図書館ボランティアの活動を紹介・報告することと、ボランティア募集も兼ねての展示会を開催しています。ボランティアの内容を3つに分けて、写真と活動内容等が分かるようコメントをつけて展示しました。

一つ目は書架整理、二つ目は本の修理、三つ目に読み聞かせです。読み聞かせの会は月4回で、3つの会に分かれています。その中で毎月第一・三金曜日に行われている「おはなしなあに」では、昨年の1月末で参加者数が285名だったのが、今年の1月末には、469名（保護者も含む）に増加しました。この会のボランティアの方々には、毎月2回程ミーティングを行い、選書、事前の読み合わせ、手遊び・小道具作り等の準備を大変熱心にされていることで、その活動が多くの参加者を引き寄せる結果に繋がったのだと思います。

また、本の修理のボランティアの



ボランティア活動報告展示会の様子

方は、「本は、消耗品なので汚れたり、破損したりすることは当然のことなので、返す時に早く申し出てください、ひどい状態になる前に修理・補強できるので、遠慮なくカウンターの方に申し出てください」と展示の中でもコメントを入れてくださいとおっしゃってくださいました。その言葉で安心する方は多いのではないかと思います。

展示会をするにあたってボランティアの方々感謝しつつ、連携をとりあって更に、熊野市立図書館のサービス向上に取り組みたいと思います。

図書館を飛び出して「本と人を繋げる」

皇學館大学附属図書館 井上真美

皇學館大学附属図書館では学生有志による図書館サポーター「ふみくら倶楽部」が活動しています。①図書館を楽しくする展示やイベント、②図書館を使いやすくする図書館整備、③図書館を飛び出して「本と人を繋げる」の3つを柱に、積極的に取り組んでいます。

今年度は、③の図書館を飛び出して「本と人を繋げる」イベントやワークショップを県内3ヶ所で、地域団体や自治体と協働し行いました。

9月29日(土)「BOOK PICNIC 2018」では少女まんが館TAKI 1735や多気町立勢和図書館と、10月28日(日)「第4回伊勢河崎一箱古本市」ではNPO法人伊勢河崎まちづくり衆や「第19回河崎商人市」の皆様と、そして11月25日(日)には「図書館を楽しく活用する方法をみんなで見つけ合って育てるプロジェクト」(以下「図書館を楽しく」)を三重県教育委員会・菟野町図書館との協働で行いました。菟野町図書館で実施した「図書館

を楽しく」では、菟野町の子ども司書や図書館ボランティアと一緒に「本と人を繋げる」ことを、体験したり考えたりしました。



本の内容をイメージ化して紹介

午前最初のプログラム「ビブリオバトル」では、ふみくら倶楽部のメンバーと子ども司書のバトルに楽しく盛り上がり、その楽しい雰囲気のまま、図書館活用のアイデアを出し合うワークショップを実施しました。午後にはメンバーがあらかじめ作成して持ち込んだ本の舞台を見本に、参加の小中学生は自分の好きな

世界や伝えたいイメージを舞台化しました。この日は、参加者みんなが自分の好きな本を誰かに伝える体験を丸一日楽しむことができました。

これらふみくら倶楽部の図書館を飛び出して「本と人を繋げる」活動は、「チャレンジプロジェクト」

「おかげキャンパスプロジェクト」という学内の学生生活支援事業にエントリして実現しています。

これからも、図書館や本との出会いを楽しみふみくら倶楽部の活動にご注目ください。



作品と一緒に

平成30年度 図書館活性化推進事業のご報告

平成30年度の当協会による図書館活性化推進事業では、4館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

① パパ'S 絵本ライブ

四日市市立図書館 村林知可子

「パパ'S 絵本プロジェクト」メンバーによる「パパ'S 絵本ライブ」の催しは、図書館では2回目となります。

「パパ'S 絵本プロジェクト」メンバーとは、仕事で知り合った育児中の男性がスタートさせたグループで、今回もNPO法人ファザーリング・ジャパンの代表理事である安藤哲也氏をはじめとする3人のメンバーでのライブ演奏となりました。

いろいろな楽器の演奏を交えながらの絵本の読み聞かせを子どもたちだけでなく大人も全身で楽しんでいる様子でした。

今回、図書館の近隣のデイサービスの子どもたちも来場してくれまし



絵本ライブの様子

た。メンバーの西村氏は、音楽療法なども行っているそうで、即興でデイサービスの子どもたちを前に呼んで、楽器で参加してもらい、子ども達も先生方も大変喜んでいました。今回の事業の目的の一つであった市民参画についても、四日市市の子育て支援団体の「パスマイル四日市」の方々に、来場受付やメンバーの方達との読み聞かせで協力していただきました。

2時間という長い演奏時間であったにもかかわらず、来場者の方々はリラックスして、楽しい絵本とのふれあいのひと時を過ごしていただけたようです。

② 児童書の利用促進事業

大台町立図書館 井澤友紀

大台町には小学校が4校あり、長年にわたり学校図書館業務のサポートをしています。担当の司書は、各学級で読む図書を30冊ずつ選定し毎月団体貸出業務をしています。しかし、児童がどのくらい図書を活用しているのかという疑問が職員の間にも広がり、今回の事業計画を実施しました。

まず、冊数を20冊に見直しました。入替は水曜日の配送・巡回業務(事業名「お出かけブックン」)で行います(写真①参照)。次に、3年生以上には貸出リストを作成して利用回数のカウントを依頼しました。絵本から読み物への移行期を3年生と捉えて、児童が興味を持った図書のタイトルを知ることが目的です。そのため、「手に取っただけ」のカウントでもよいことを説明しました。

さらに、児童が読みたい本や感想などを自由に記入できる用紙「伝言板」を作成しました。司書が入替のタイミングで返事を書くので、双方の情報伝達が可能になりました。貸出リストと伝言板は、学級ごと

に専用のバインダーを用意しました。入替の際に差し替えを行います(写真②参照)。

学校や学年によって様々ではありますが、児童の読書傾向の輪郭が少しずつ見えてきたような手ごたえを感じています。また、選書にも反映させることができました。今後も児童に寄り添った業務を行っていききたいと思います。



写真①お出かけブックン



写真②貸出リストと伝言板

③ 「世界の絵本からこんにちはは！」を開催して

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
属図書館

石川拓次

本学の図書館では、10月22日(月)から12月26日(水)まで世界各国の絵本を紹介展示、閲覧を行いました。馴染みのある絵本から、外国ならではのユーモアのある絵本の展示に、ご来館いただいた方からは「面白い」や、「この絵本好きだったな」と絵本を手に取り、懐かしむ姿もみられました。

そして、本学の国際・幼児教育の特性を活かして、近隣のこども園の園児を招待し、外国にルーツを持つ学生と日本人学生による共同の絵本の読み聞かせ会を実施しました。英語と日本語の読み聞かせに園児たちは興味津々といった様子でした。学生達にも良い経験になったと思います。

また、「世界の絵本 総選挙！」と題して、お気に入りの絵本に投票したり、絵本の翻訳コンテストなどを企画実施したりしました。たくさんの方に参加していただき、本学図

書館が世界に開かれた図書館であることを知っていただく良い機会となったと思います。今後も、本学の特性を活かした事業を展開して参ります。



世界の絵本 総選挙!



学生による読み聞かせ会

④ “本とふれあうミニコンサート” パート2”を開催して

鈴鹿工業高等専門学校図書館

藤田時子

本件を三重県図書館協会の図書館活性化推進事業として応募したところ、昨年に引き続き本年度も採択され、9月22日(土)にパート2としてミニコンサートを開催することができました。今回のミニコンサートでは前回の反省や意見を踏まえて、新たなステージ作りや会場のセッティング方法の変更などの工夫を行い、本校音楽部に加えアコースティックギター部も参加してもらいました。演奏曲目は、木管アンサンブル、金管アンサンブル、打楽器アンサンブル、アコースティックギター演奏、合同演奏など多岐にわたり、2時間を超える演奏会となりましたが、今回も成功裏に終了することができました。

コンサート終了後には、情報処理センター長から情報化社会における情報の扱い方や情報セキュリティに関する貴重な説明もしていただきました。アンケートを集計したところ

93%の方が「良かった」86%の方が「今後も参加したい」との回答を得ていることから可能ならば今後もこのような図書館活性化に向けた取り組みを継続して実施していきたいと考えています。最後に、昨年と同様に本年度もミニコンサートを終えた頃から、本校図書館の一般利用者数が増加していることを申し添えます。



コンサートの様子

研修会のご報告

図書館職員基礎講座

比較的经验の浅い職員向けの研修である基礎講座を、11月8日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「多文化コミュニティにおける図書館の挑戦」をテーマに、三重大学地域人材教育開発機構の和氣尚美氏を講師にお招きしました。この研修には、22名にご参加いただきました。参加された方の中から、亀山市立図書館の駒田晃汰さんにご報告をいただきました。

図書館職員基礎講座に参加して

亀山市立図書館 駒田晃汰

今回の研修は、日本における外国人住民数が増加傾向にある中、公共図書館に求められる多文化サービスとの在り方について、改めて考えさせられる機会となりました。講義では、移民とその子孫が人口の1割以上を占めるデンマークの公共図書館が事例として取り上げられ、移民を対象

に実施されてきた様々な支援プログラムや多言語資料の収集・提供サービスの内容について丁寧に教えていただきました。

当館では、市の「亀山ニュース(外国語版広報かめやま)」において、所蔵している多言語図書を紹介記事を掲載するなど、外国にルーツを持つ方々への情報発信による来館の促進を試みています。しかし、実際の利用にまで至っている手応えはそれほど感じられず、どうすれば彼らにとって足を運びやすい公共図書館になるのかと日々、苦慮しているところです。

講義後に行われたワークショップでも、「図書館の存在を外国にルーツを持つ人々のコミュニティにおいて浸透させるための方策」についてグループの方々話し合いましたが、情報ツールを活用した周知には限界があるという認識は共通していました。結果、受け入れ環境の整備に留まらない、支援プログラム等のコミ

ュニティへの能動的かつ直接的なアプローチの必要性や具体的な方法について、意見を交換することができました。

現実的な難しさはありますが、多文化コミュニティにおける図書館の挑戦に、学齢期を異国の地で過ごした1人の職員として携われたらと強く想えるようになりました。



基礎講座の様子

図書館職員専門講座

12月14日に津市の三重県生涯学習センターで専門講座を開催しました。「こんなときどうする? 図書館の危機管理」をテーマに、群馬県草津町教育委員会事務局の中沢孝之氏

を講師にお招きしました。この研修には28名にご参加いただきました。参加された方の中から、三重短期大学附属図書館の中澤利美さんにご報告をいただきました。

3つの視点―図書館職員専門講座に参加して
三重短期大学附属図書館

中澤利美

近頃のニュースは、司書としても気になる事が多く、日々危機管理という言葉を意識せざるはいられます。今回、この研修に参加して、自分なりに感じたことの中から、3つの視点をお伝えしたいと思います。

一つ目は、自館にあらゆる危機の可能性があるということです。自然に因る危機、人に因る危機等、世の中で起きているすべての危機は自館で起こる可能性があります。何となく起こらないだろうではなく、自館で起こるかもしれないと意識することが、危機管理対策の第一歩となるのではないのでしょうか。次に、対策は世界に一つだけ、そして想像力の賜物ということ。今カウンスターで目の前の人が倒れたら? というシミュレーションは、ぜひ皆さんの館



専門講座の様子

でもしていただければと思います。職員が1人だったら？他の人が写真撮り始めたら？等、一般論ではなく、自館を想定したあらゆる可能性を想像できるかどうか、重要な鍵だと感じました。三項目は、具体的ななしに対策はなしということです。「注意の声かけをする」は対策ではありません。「○○が△△に□□と声をかける」まであって、初めて有効な対策になるといことです。危機は起こらないことが一番です。でも、もしもの時に、最小限の被害となるよう、研修を活かして、日々意識していきたいと思えます。

視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を2月15日に実施しました。松阪市松阪図書館と三重大学附属図書館を視察したこの研修には、22名にご参加をいただきました。参加された方の中から、紀北町紀伊長島図書館の中村朱里さんに御報告をいただきました。

視察研修に参加して

紀北町紀伊長島図書館 中村朱里
平成31年2月15日、視察研修に参加させていただきました。

まず、1年間の改修を終え平成30年4月にリニューアルオープンした松阪市松阪図書館を訪問しました。3階建ての建物のうち、1階と2階を全面改修され、新たに自動貸出機、図書消毒機、学習室座席管理システムなどが導入されました。どれも大変興味深く、終始心が躍りました。1階の予約図書受け取り室のすぐ横には裏口があり、忙しい人には大変便利な造りになっています。2階には新たに飲食スペースができ、時間を気にせず一日ゆっくりと過ごせる

環境が整っていました。利用者の様々なニーズに添えていくのは難しいことですが、忙しい人にもゆっくりしたい人にも利用しやすい図書館になっていると感じました。



学習座席管理システム



予約図書受け取り室

次に訪れた三重大学附属図書館は、どの学部からもアクセスしやすいように、三重大学の中心に位置しています。3階からなる建物は、上層階に上がるほど静かになるように会話レベルでゾーン分けをされています。

三重大学附属図書館では「研究支援」「学習支援」「地域貢献」の3つの機能をサービスの柱に据えており、館内を見て回るとそれらが充分機能していることがわかりました。隣接するラーニングコモンズも魅力的で、図書館とも2階でつながっており、学生の多種多様な要望に応じられる図書館になっていると感じました。今回はじめて視察研修に参加させていただいて、本と人、人と人を繋ぐ図書館のあり方について改めて考えることができました。



会話レベルによるゾーン分け



学生の課題解決を支援するサポートデスク

新館案内

松阪市松阪図書館

松阪市松阪図書館は、建物の老朽化等に伴う改修工事を行い、平成30年4月1日にリニューアル開館しました。1階2階部分を全面改修したため今までは棚の配置を変更することで、外観とともに印象ががらりと変わりました。

一般図書は1階2階と分けての配架となり、たくさん利用がある料理などの実用書を集めた「暮らしのコーナー」を1階にしました。

児童図書コーナーは全体的に棚の高さを低くすることで児童室を見渡せるようになり、読み聞かせ室はガラス張りで開放的な明るい雰囲気の中、親子で読み聞かせをしている姿が多く見られるようになりました。

今回のリニューアルでは、新しいシステムを多く導入しました。具体的には「IC自動貸出機」や予約し



た本を利用者自身で受け取る「予約図書受け取り室」、学習室の座席を管理するシステム「ILYA(イリヤ)」、調べもの等に利用していただけの「インターネットコーナー」、読書消毒機「LIVA(リーバ)」などがあります。「LIVA」は最大6冊消毒殺菌ができます。



明るく開放的な読み聞かせ室

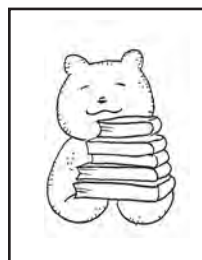
2階に新たに設置した休憩・交流コーナーでは、自動販売機を設置して図書館での飲食やちよつとひと息入れたい時に利用してもらえます。また、壁面を最小限にすることで開放的な空間となり、ソファなどの閲覧用の椅子を多く置き、読書をゆつくり楽しめるようになっていきます。

リニューアルを機に新しいシステムを導入することで最初は戸惑う利用者の方もみえましたが、徐々に慣れていただいています。もうすぐ1年が経とうとしています。今後さらに利用者目線に立った図書館づくりを心掛けていきたいです。



改修を終えリニューアルした図書館(外観)

ブックエンド



『園芸少年』

魚住直子/著
講談社

津市一志図書館
村瀬睦子

高校生活をそつなく過ごそうとする主人公の篠崎は、入学して間もない頃、捨てるに困った紙コップの解けた氷の水を萎れた草にかけたところ、次の日その葉っぱだけがやたらと元気になっていたのでをきっかけに、外見が不良っぽい大和田と一緒に、昼休みに水をやり始めます。そこへ、何故かダンボール箱を被って相談室に登校している庄司も加わって…。園芸部の活動を通して成長していく少年たちの姿と植物の成長が重なり合う、おもしろい物語です。